

科目名	年度	レポート番号	クラス	学籍番号	名前
API 実習	2024	3	A	20123038	平岩 利希

レポートは 3 ページ以上、5 ページ以内とします。5 ページを超えても構いません。ページ数や文字数よりも、わかりやすく書けているかどうか、点数アップの分かれ目です。改行で稼ぐ行為は減点対象です。

生成 AI を使いましたか？（どちらかに○をつけてください） **はい** ・ いいえ

上記で「いいえ」と回答したにも関わらず、生成 AI を使ったと疑わしい場合は、レポートについて各クラスの教員から質問します。

調査レポート名：[テクノロジー・リーダーが把握すべき見落とされがちな 6 つの課題](#)

## 調査レポートの要約

### 【はじめに】

企業のテクノロジーリーダーは、IT 部門の独立した管理者から、企業全体の戦略に関わる主要な意思決定者へと移行している。調査では、生成 AI によってテクノロジーがビジネスの中心に据えられたことが明らかになり、CEO の 72% が AI の高度な仕様が企業に直接的な競争上の優位性をもたらすと回答していることから、このニーズが中心に据えられている。ほとんどの組織では、テクノロジーリーダーは戦略的な意思決定プロセスに含まれておらず、ビジネス戦略と効果的に連携していない。企業が成功するには、テクノロジーリーダーが他の役員と連携し、戦略的リーダーシップを推進できるようにする必要がある。

しかし、テクノロジーの使用に関する問題は多くの企業を悩ませ続けており、組織の成長と競争力を妨げている。このレポートでは、テクノロジーリーダーが見落とされがちな 6 つの問題を要約していく。

### 【6 つの課題】

#### 1. テクノロジーはビジネスの中核でなくてはならない

企業はテクノロジーを単なる手段として捉えがちだが、実際には競争力の源泉である。生成 AI やデジタル技術の発展により、テクノロジーの活用がビジネスの成否を決定する要因となっている。しかし、多くの企業はテクノロジーを「道具」として受動的に利用するにとどまり、革新の原動力として活用する意識が欠けている。このような姿勢では、競争優位性を確立できず、市場の変化に取り残される可能性がある。テクノロジーをビジネス戦略の中心に据え、組織全体で技術革新に取り組むことが求められる。そのためには、リーダーがテクノロジーの潜在能力を理解し、企業の目標と統合させる必要がある。新しい市場機会を創出し、競争優位性を維持するためには、テクノロジーの活用が不可欠である。

#### 2. 協力の実態は不十分

多くの企業では、部門間の協業が重要視されているが、実際には形だけの連携にとどまっているケースが多い。特に、テクノロジー部門とビジネス部門の間には深い溝があり、情報共有や意思決定が不十分である。その結果、戦略の統一が困難になり、組織全体の効率が低下する。効果的な協業を実現するには、単なる情報共有を超えた戦略的なパートナーシップを構築し、共通のビジョンを持つことが必要である。特に、テクノロジーと財務の統合が重要であり、IT 投資の ROI を明確化し、経営層が適切な判断を下せる環境を整えることが求められる。今後のビジネス環境では、異なる部門間のシナジーが企業の競争力を決定するため、より深いレベルでの連携が不可欠である。

### 3. 生成 AI の導入による組織の混乱

生成 AI は多くの企業にとって画期的な技術とみなされているが、適切な運用戦略がないと混乱を招く可能性がある。企業は AI を「魔法の杖」として過信しがちであり、導入の際に必要なインフラの整備やデータ管理の重要性を軽視することが多い。AI を活用するには、既存の IT システムや業務プロセスとの整合性を考慮し、技術的な負債を最小限に抑える必要がある。また、AI の倫理的側面やデータプライバシーの確保も課題となる。特に、生成 AI の導入によって業務の役割が変化するため、従業員の適応力が求められる。組織全体で AI 戦略を策定し、段階的に導入することで、AI の利点を最大限に活かしつつ、リスクを最小化することが重要である。

### 4. 「責任ある AI」の実現が困難

AI の信頼性向上を目指す企業は多いが、その実現には多くの課題がある。アルゴリズムの公平性や透明性、データプライバシーの確保が十分でなければ、企業の信用が損なわれる可能性がある。多くの組織は AI のガバナンスを導入していると回答しているが、実際には責任原則を十分に実践できていない。企業は AI を適切に管理し、説明可能な形で運用するためのフレームワークを確立する必要がある。また、AI の利用に伴うリスクを低減するためには、従業員の適切な教育とトレーニングが不可欠である。特に、生成 AI の導入が進む中で、技術を単なるツールとして扱うのではなく、倫理的な観点を持って活用する企業文化を醸成することが求められる。

### 5. データは資産にも負債にもなる

データは企業にとって貴重な資産であるが、適切に管理されなければ負債となる可能性がある。多くの企業は膨大なデータを収集しているが、それを有効活用できず、管理コストやセキュリティリスクの増大を招いている。データを戦略的に活用するためには、明確なデータガバナンスを確立し、不要なデータを整理することが重要である。また、データの質を向上させるためには、適切なクレンジングや分類が不可欠であり、これによりビジネスインサイトを得やすくなる。さらに、データの所有権やアクセス権限を明確にすることで、セキュリティリスクを最小限に抑えることができる。データの価値を最大化するには、適切なインフラと分析手法を活用し、組織全体でデータ戦略を推進する必要がある。

### 6. 時代遅れの人材戦略

企業は優秀な人材を確保していると考えているが、多くの場合、その人材戦略は時代遅れである。テクノロジーの進化に伴い、必要とされるスキルセットが変化しているにもかかわらず、従来の採用や育成手法に依存している企業が多い。特に、デジタルスキルや AI 活用能力を持つ人材の確保が重要であり、企業は継続的な教育プログラムを導入する必要がある。また、従業員の学習機会を提供し、変化に対応できる環境を整えることが求められる。さらに、柔軟な働き方を導入し、多様な人材が活躍できる組織文化を醸成することも不可欠である。人材戦略をアップデートし、新たな働き方に適応することで、企業の競争力を強化することができる。

## 【まとめ】

本レポートでは、テクノロジー・リーダーが直面する 6 つの課題を要約した。テクノロジーは企業の競争力を左右する要素でありながら、経営戦略への組み込みが不十分であり、部門間の連携も表面的なものにとどまっている。また、生成 AI の導入に伴い、インフラ整備の遅れやデータ管理の課題が浮上し、組織の混乱を招く可能性が指摘されている。さらに、AI の倫理的課題やデータガバナンスの確立が不十分であり、適切な管理が求められている。人材戦略においても、テクノロジーの進化に対応できる人材の育成が十分に進んでいない。テクノロジー・リーダーは、これらの課題に対応し、組織の成長と競争力向上に貢献することが求められている。

## あなたの考え

私は調査レポートを読んで、生成 AI の導入が企業の発展にどのような影響を与えるかについて疑問を持った。レポートでは、AI の活用がビジネスの成長を促進すると述べられていたが、私は AI の導入だけでは企業の持続的な成功には不十分だと考える。なぜなら、AI の効果を最大限に引き出すためには、従業員の適応力と企業文化の変革が不可欠だからである。例えば、AI が業務の自動化を推進しても、従業員がその活用方法を理解しなければ、作業効率の向上にはつながらない。この課題を解決するために、企業は従業員向けの教育プログラムを実施し、AI の活用スキルを向上させることが重要である。

さらに、AI 技術の発展に適応しながら、それを適切に活用するための倫理観や協働の在り方を学ぶ必要がある。AI を単なるツールとしてではなく、戦略的なパートナーとして活用するためのスキルと意識を高めることが求められる。AI を活用するのは良いが、そのためには企業や組織全体で AI や IT のスキルがないと上手く活用するのは難しいと感じる。従業員全体のスキル向上と企業文化の変革が、AI の導入効果を最大化するための鍵となるだろう。

## 専門用語解説

- 生成 AI: データから新しいコンテンツを生成する AI 技術。
- テクノロジー・リーダー: 企業の技術戦略を指導する役職。
- 経営戦略: 企業の長期的な目標と計画。
- 競争優位性: 他社より優れた独自の強み。
- データガバナンス: データの管理と利用に関する枠組み。
- インフラ: IT システムやネットワークの基盤。
- データプライバシー: 個人データの保護と管理。
- アルゴリズム: 問題解決のための手順や計算方法。
- ROI: 投資に対する利益の割合。
- イノベーション: 新しいアイデアや技術の導入。
- デジタルスキル: デジタル技術を活用する能力。
- リスキリング: 新しいスキルを習得すること。
- アップスキリング: 既存のスキルを向上させること。

- ハイブリッドクラウド:複数のクラウド環境を組み合わせたもの。
- サステナビリティ:持続可能な発展を目指す取り組み。
- サイバーセキュリティ:情報システムの安全を確保する技術。
- データファブリック:データ管理のための統合基盤。
- マスターデータ:企業全体で共有される基本データ。
- データカタログ:データ資産の一覧と説明。
- KPI:業績評価のための指標。
- デジタルトランスフォーメーション:デジタル技術による業務改革。
- AI ガバナンス:AI の管理と運用に関する枠組み。
- クラウドガバナンス:クラウド環境の管理と運用。
- データクレンジング:データの品質を向上させる作業。
- データ分類:データをカテゴリに分けること。
- データインフラ:データ管理のための基盤。
- データアナリティクス:データ分析の技術と手法。
- データセット:分析対象となるデータの集合。
- データプラットフォーム:データ管理と分析のための基盤。
- データインサイト:データから得られる洞察や知見。